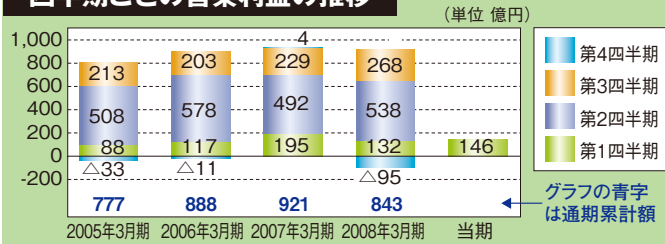


■第1四半期の概況

営業収入は主力の航空運送事業が若干の増収を確保したものの旅行事業の不振等により3,455億円(対前年同期比40億円減)、営業費用は航空燃油費のヘッジ効果やコスト削減策の継続等により3,309億円(同54億円減)となりました。結果、営業利益は146億円(同13億円増)となり、四半期純利益は66億円(ホテル資産売却益を計上した前年同期に比べ807億円減)を計上しました。

四半期ごとの営業利益の推移



連結損益計算書

	前第1四半期 (2007年 4 月 1 日から 2007年 6 月30日まで)	当第1四半期 (2008年 4 月 1 日から 2008年 6 月30日まで)
営業収入	3,496	3,455
営業費用	3,363	3,309
営業利益	132	146
営業外収益	29	54
営業外費用	93	89
経常利益	68	110
特別利益	1,347	9
特別損失	23	0
税金等調整前四半期純利益	1,391	119
税金費用	514	53
少数株主利益	3	0
四半期純利益	873	66

連結キャッシュ・フロー計算書

	前第1四半期 (2007年 4 月 1 日から 2007年 6 月30日まで)	当第1四半期 (2008年 4 月 1 日から 2008年 6 月30日まで)
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	310	△ 388
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	2,030	△ 153
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 841	341
4. 現金及び現金同等物の換算差額	0	0
5. 現金及び現金同等物の増減額	1,500	△ 200
6. 現金及び現金同等物の四半期末残高	3,223	1,598

連結貸借対照表

	前期 (2008年 3月31日現在)	当第1四半期 (2008年 6月30日現在)	前期 (2008年 3月31日現在)	当第1四半期 (2008年 6月30日現在)
〈資産の部〉			〈負債の部〉	
流動資産	4,734	5,136	流動負債	5,469
固定資産	13,097	13,681	固定負債	7,804
繰延資産	1	2	負債合計	13,274
			純資産の部	
			株主資本	4,226
			資本金	1,600
			資本剰余金	1,257
			利益剰余金	1,347
			自己株式	△ 9
			評価・換算差額等	303
			その他有価証券評価差額金	78
			繰延ヘッジ損益	222
			為替換算調整勘定	1
			少数株主持分	29
			純資産合計	4,559
資産合計	17,833	18,819	負債純資産合計	17,833

【資産の部】 燃油および為替のヘッジにかかわるデリバティブ資産が大幅に増加した一方、機材更新に伴う航空機の売却等により固定資産が減少。結果として、総資産は前期末比985億円増加し、1兆8,819億円となりました。

【負債の部】 負債合計は前期末比108億円増加の1兆3,382億円。有利子負債残高は、新規借入や社債発行により前期末比437億円増加し、8,116億円となりました。

【純資産の部】 四半期純利益の計上および前期末配当金支払の結果、利益剰余金は前期末比30億円減少。また、繰延ヘッジ損益が909億円増加したこと等により、純資産合計は前期末比877億円増加し、5,437億円となりました。この結果、自己資本比率は28.7%となりました。

■キャッシュ・フロー

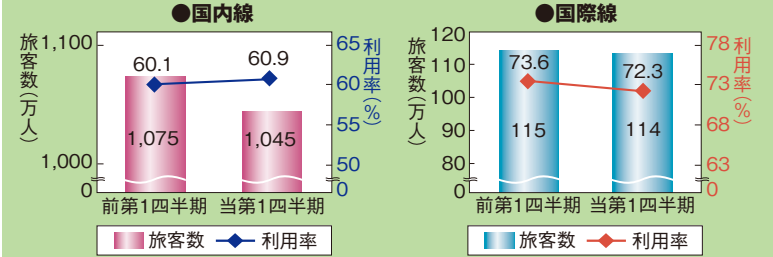
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益に、減価償却費や法人税の支払などを加減した結果、388億円の支出になりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、航空機関連の投資などを行った結果、153億円の支出になりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済を進める一方、新規の借入や社債発行により資金調達を行った結果、341億円の収入になりました。

決算に関する資料等は当社ホームページでもご覧いただけます。 HP (<http://www.ana.co.jp>) → IR情報 → 決算情報 → 決算短信

航空運送事業

■国内線旅客事業

競争激化のなか提供座席数が対前年同期比96.0%に対し、旅客数は同97.2%、収入は1,664億円(同98.0%)となりました。
競合他社や他交通機関との競争が激化するなか、需給に見合った路線ネットワークへの見直しを進めるとともに、「旅割」等によるプレジャー需要の喚起やビジネス需要向け運賃・サービスの提供等により収益性向上、競争力強化につとめました。



■国際線旅客事業

欧米線ビジネス需要は堅調でしたが、中国線の需要が低迷、対前年同期比で旅客数99.6%に、収入は単価上昇により785億円(同102.8%)となりました。
欧米線のビジネス需要は引き続き堅調で単価も上昇しましたが、食の問題や四川大地震等の影響で中国線の需要が低迷。このような状況下、価格競争力の高い新運賃「スーパーエコ割」の設定や利便性の高い羽田～香港線の新規開設等により需要喚起につとめました。

■貨物事業

国際線フレーターの輸送量が伸びたこと等により、収入は国際線196億円(対前年同期比117.7%)、国内線80億円(同109.8%)と共に増収となりました。
国内線は運賃体系の改訂による単価改善やオフピーク時間帯需要の増加に支えられ収益性が向上。国際線は日本発輸出貨物需要が伸び悩んだものの、「アジア・中国地区」⇄「北米・欧州」間需要を積極的に取り込み、フレーターの輸送力を大幅に増強したことにより、輸送重量は125.6%と大幅に増加しました。

旅行事業

国内旅行は弱含みで推移し、海外旅行は燃油サーチャージの上昇や中国方面への需要減退の影響を受け低迷し、売上高は415億円(対前年同期比88.9%)、営業損益は4億円の損失となりました。

その他の事業

商社事業(全日空商事株)が当社との航空部品関係取引の契約変更に伴い減収となったこと等から売上高は365億円(対前年同期比76.4%)、営業利益は3億円(同41.0%)となりました。

※本文中の記載金額、数量は表示単位未満の端数を切り捨てております。

航空輸送事業の売上高

区 分		事業年度	前第1四半期 (2007年 4 月 1 日から 2007年 6 月30日まで)	当第1四半期 (2008年 4 月 1 日から 2008年 6 月30日まで)	増減
航空運送事業	国内線	旅 客 収 入	1,697	1,664	△ 33
		貨 物 収 入	73	80	7
		郵 便 収 入	18	10	△ 8
		手 荷 物 収 入	0	0	0
		小 計	1,790	1,756	△ 34
	国際線	旅 客 収 入	763	785	21
		貨 物 収 入	167	196	29
		郵 便 収 入	9	9	△ 0
		手 荷 物 収 入	1	1	0
		小 計	941	993	51
	航空事業収入合計		2,732	2,749	17
	そ の 他 の 収 入		327	325	△ 1
小 計		3,059	3,075	15	

(注)各収入は事業区分(セグメント)間の売上高を含んでおります。

輸送実績

区分	事業年度	前第1四半期 (2007年 4 月 1 日から 2007年 6 月30日まで)	当第1四半期 (2008年 4 月 1 日から 2008年 6 月30日まで)	前年同期比 (%)
国内線	旅客数(万人)	1,075	1,045	97.2
	座席キロ(座席キロ)*1	154	149	96.4
	旅客キロ(億人キロ)*2	92	90	97.7
	利用率(%)*3	60.1	60.9	0.8
	貨物輸送重量(千トン)	108	113	104.9
	貨物輸送量(百万トンキロ)	104	110	105.4
国際線	郵便輸送重量(千トン)	19	10	52.6
	郵便輸送量(百万トンキロ)	20	9	48.1
	旅客数(万人)	115	114	99.6
	座席キロ(座席キロ)*1	70	70	100.9
	旅客キロ(億人キロ)*2	51	51	99.1
	利用率(%)*3	73.6	72.3	△ 1.3
国際線	貨物輸送重量(千トン)	77	97	125.6
	貨物輸送量(百万トンキロ)	380	459	120.8
	郵便輸送重量(千トン)	3	4	119.1
	郵便輸送量(百万トンキロ)	16	21	130.1

(注) *1.座席キロ:(座席数)×(運航キロメートル) *2.旅客キロ:(旅客数)×(運航キロメートル) *3.利用率:(旅客キロ)÷(座席キロ) 4.国内線旅客数にはIBEXエアラインズ(株)、北海道国際航空(株)、スカイネットアジア航空(株)および(株)スターフライヤーとのコードシェア便実績を含みます。 5.国際線旅客数にはユナイテッド航空(関西～ホノルル線:平成19年9月30日をもって運航休止)およびエバー航空とのコードシェア便実績を含みます。 6.国際線貨物および国際線郵便実績にはABX Air社委託運航便実績を含みます。 7.国内線深夜貨物定期便実績を含みます。 8.国内線、国際線ともにチャーター便を除きます。 9.国際線の貨物輸送重量と貨物輸送量の計上基準を当第1四半期連結累計期間より一部変更しています。なお、新基準により集計した場合の前年同期の貨物輸送重量は81千トン、貨物輸送量は384百万トンキロとなります。